

2022. 7. 24 (日) 使徒2:40~41

2:40 ペテロは、ほかにも**多くのことば**をもって証しをし、「この曲がった時代から救われなさい」と言って、彼らに勧めた。

2:41 彼の**ことば**を受け入れた人々はバプテスマを受けた。その日、三千人ほどが仲間に加えられた。

<説教>

およそ2000年前のペンテコステ（「五旬節の日」(2:1)）、イエス・キリストが約束してくださっていた聖霊がイエスの使徒たち弟子たちの上に注がれ、皆が聖霊に満たされました。そしてその場に集まって来た大勢のイスラエルの民に向かって使徒ペテロが声を張り上げて説教をしました。ペテロは聖霊に導かれて、(旧約)聖書を思い起こし、またイエスのみことばとみわざを思い起こして大胆に、はっきりと語りました。神がお定めになった計画と予知に基づいて神が〈主ともキリストともされた〉イエスをイスラエルの人々は十字架につけて殺したのだと、人々の罪を指摘しました。ペテロの説教を聞いた人々の応答とそれに対するペテロの答えが37~39節に記されていて、先主日に読み学びました。本日の箇所、40,41節にはそのペンテコステの日に起こったことが短く纏めて記されています。

ペテロの説教は14~36節と、それへの人々の応答(37)に対するペテロの応答(38, 39)で終わらず、40節を見ると更に続いたことが分かります。ペテロは14~36節で語ったこととは更に〈ほか〉の)、ここには記されていない〈**多くのことば**をもって証しをし

ました。そして「この曲がった時代から救われなさい」とのことばで〈彼らに勧め〉ました。ペテロがそうしたのは、そうするように聖霊に示されて、聖霊に導かれてのことだったに違いありません。〈**多くの**〉という言葉には「激しい」という意味合いもあるようです。「イスラエルの全家は、…はっきりと知らなければなりません。神が今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。」(36)という言葉も確かに「激しい」言葉でした。また〈証しをし〉の「証しをする」と訳された言葉は「警告する」(ルカ 16:28)、「厳かに命じる」(Iテモテ 5:21、IIテモテ 2:14)とも訳されている言葉です。ですからペテロは、ここに記されていないけれども、記されていない、ほかの多くの「激しい」ことばをもって人々に証しをし、「厳かに命じ」、「警告した」のです。その前に言った「それぞれ罪を赦していただくために、悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば賜物として聖霊を受けます。この約束は、あなたがたに、あなたがたの子どもたちに、そして遠くにいるすべての人々に、すなわち、私たちの神である主が召される人ならだれにでも、与えられているのです。」(38,39)ということばはいわば優しい言葉です。しかし同時にそれは「厳かに命じる」ことばであり、もしそれを拒むなら再び、更に神に敵対することになるという「警告」のことば、人々に恐れを生じさせることばだったと言えるでしょう。

そんなペテロの〈ほかにも**多くのことば**をもって〉の〈証し〉を、ルカは「この曲がった時代から救われなさい。」という〈勧め〉(呼びかけ、励まし、懇願)を書き記して締めくくりました。〈曲がった時代〉の〈時代〉とは、「何年」という「時」「時間」のこと

ではなく、その「時」の中に生きている人々のことであり、むしろ「世代」と言うべき人々のこと。〈曲がった〉とは「正しい道、方向から、るまり神のみこころから間それている、神のことばをねじ曲げて理解し、神に反逆し、神の命令とは違う方向に向かっていく」ということです。イエスが既に「ああ、不信仰な曲がった時代だ」(マタイ 17:17)と言われ、「これらの報いはすべてこの時代の上に降りかかる」(同 23:36)と言っておられました。ペテロはそのイエスのことばに倣ったと言うこともできるでしょう。〈から〉とは「～から分離して、脱出して」という意味です。「神が今や主ともキリストともされたイエスを十字架につけて殺した人々の中から分かれ出て、彼らから離れて、彼らと共に神のさばきを受けることがないように、彼らの側にではなく、神の側に着いて」ということになります。それは内容としては、先に言われた「それぞれ罪を赦していただくために、悔い改めて、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。」(38)と同じことです。でもそのことを、またそうすべきことをペテロは〈ほかに多くのことばをもって証しをし〉、〈勧めた〉のです。「この曲がった時代から分離して、脱出して」救われる者は、もちろん早く死んでこの世から去ることでもないし、この世の人々の間で人々とともに生きることを止めて修道院にでも入って、この世とは無関係で、この世に無関係で、この世の不信仰や不正を見て見ぬふりをして生きるということではありません。そうではなく、信仰において、考えにおいて、行いにおいて、「この世と調子を合わせない」「この世と同じ形にならない」ということです(ローマ 12:2)。イエスを主、キリストと信じ受け入れて、〈非難されるところのない純真な者となり、また、曲がった邪悪な世代のただ中であって傷のない神の子どもとなり、いのちのことばをしっかりと握り、彼らの間で世の光として輝く〉(ピリピ 2:15,16)ということ。この世の不信仰、不正を、曲がっていることを憂い嘆き、そんなこの世で生きることの困難を覚え、生き辛さを覚えますが、そうであればこそ、この世に向かって救い主イエス・キリストを証しして生きること。〈キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られ、…キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいいのちに歩む〉(ローマ 6:4)ということ。

ガリラヤの人、ペテロがそのとき語った〈ほか〉の〈多くのことば〉が実際どんなことばかは分かりません。しかしそのとき〈三千人ほど〉の人々が、その〈多くの〉、証し、警告、勧めのことばを「ああもう分かった分かった」と言って途中でさえぎるのでなく、最後まできちんと、忍耐強くへりくだって聞いたのです。そうやって〈彼のことばを受け入れた人々〉が〈バプテスマを受けた〉のです(41)。それは〈イエス・キリストの名によって〉でした。彼らはイエスを主ともキリストとも信じ、受け入れ、悔い改め、罪を赦されたのです。彼らは〈この曲がった時代から救われ〉、〈曲がった邪悪な世代のただ中であって傷のない神の子どもとなり、いのちのことばをしっかりと握り…世の光として輝く〉歩みの一歩を踏み出したのです。それはペテロの力ではなく、イエス・キリストの名によること、つまり、イエス・キリストの力によることであり、イエス・キリストの御霊、聖霊の力によることでした。

<